

明治前半期、山口県人によって設立された協同商会について

植田藍子・木村健二

本稿は、故金光玉氏（釜山大学校歴史学部教授）によって韓国語で書かれた「（大阪）協同商会」の本格的な研究を日本語に翻訳し、その概要と残された論点を整理したものである。すなわち協同商会は、山口県の士族層を中心に、1877年に大阪に設立されたものであり、朝鮮各開港場に支店網を展開し、明治前半期の日朝貿易に重要な役割を演じている。金氏の論考は第1章協同商会の設立、第2章協同商会の朝鮮貿易活動、第3章協同商会の海運経営、第4章協同商会の解散からなり、とくに朝鮮人日本訪問団におけるサポートや壬午軍乱・甲申政変時における活動、防穀令事件との関連（第2章）などにおいては、韓国側の新しい資料を駆使して新事実を発掘している。残された課題としては、協同会社と協同商会との関係、協同商会廃止の経緯などであるが、本稿でもあるていど推定が試みられており、一定の研究の進展をみたといえる。